

一橋大学大学院—公共政策セミナー—

第6回講義：中里幸聖

「都市公共交通のあり方」

(株)大和総研／産学連携室

講義日（場所）	講師	講義概要／備考
6/2(木)16:15 (神田・学術総合センター: 4F 第5講義室)	金融公共コンサルティング部・主任 研究員 中里幸聖氏	<講義概要> ・ 「都市公共交通のあり方」をテーマに講義を行った。 ・ 前提条件として、交通事業の収益は人口規模と年齢構造に強く影響を受けることに触れ、わが国の人口動態の現状と見通しについて説明した。また、本講義では、いわゆる交通における“都市公共交通”（地下鉄、路面電車、路線バス、新交通システム）を主題にすることを説明した。 ・ 「1. 陸上公共交通整備の歴史的経緯」では、官と民の事業主体が時代背景（鉄道の誕生、戦争、軍事需要、高度成長期、安定成長期など）とともに移り変わってきたこと、代表的な都市（京都、東京、ロンドン、ニューヨーク）における運営主体の事例紹介、鉄道に関する法律の変遷について解説した。 ・ 「2. 都市公共交通の運営主体」では、主な都市におけるバス、地下鉄、路面電車の運営主体、事業規模、整備状況などを紹介し、人件費、減価償却費、支払利息、補助金などから見た損益構造をそれぞれの都市の交通について分析した。 ・ 「3. 都市公共交通を巡る最近の動きと今後の方向性」では、戦後から70年代の“発展段階”と、80年代以降の“成熟段階”の2段階それぞれの、社会背景、都市鉄道整備の環境、政策環境、公・民の整備財源とリスク負担の変化をまとめた。 ・ 最後に、本講義を総括し、今後は利便性向上や効果的な運営の重要性が高まっていくこと、都市政策との整合性や人口増変化への対応にさらなる改革・改善の努力が必要であるとして講義を終えた。 ・ 7/14に予定されている「プレゼンテーションとディスカッション(6)」の課題は、“都市公共交通を抱える都市を事例とし、公営によることのメリット・デメリット、官民連携や民営化の可能性について論ぜよ”というものである。 <備考> ・ 講義終了後、プレゼン担当の院生3名と山重先生および講師が課題内容について打合せを行った。 ・ 地域特性を考慮した公共交通の現状分析を行い、グループで議論しながら解決策を模索すること。その際、複数交通を組み合わせること、高齢者の利便性などの視点を織り込むこと、個別事例に終わらせることなく一般化の努力もすることなどを確認した。

以上